



落選和歌集 (四)



↑虎です…(戦う)

多谷 昇太

四人(よつたり) 寄りたり 「副題・格差」

我ならで誰かよく詠むこの歌題塞翁が馬とは我にあり

※この歌だけ現代語訳を付けて置きますね「私以外に誰がよく詠むだろうかこの歌題を。塞翁が馬とは私のことなのだ」となります。そう云う分けは末尾に：

いまに継ぐ二十年(ふたとせ) 弱の永き間を四人(よつたり) うから付ひて離れず

このうから我を寝かせぬ暮させぬ喚(をめ) きののしりただに苛む

輩(うから) らはトドリ侍りてひねもすに遊び暮らす日課となりぬ

このうからストーカーなるもなにゆゑ警察は届けすら受けぬか

なぜ受けぬ被害届を警察はわれ貧者なれば取り合ひもせぬか

ストーカーは男女二組四人なり使はれるがままのチンピラたり

チンピラの金廻りよきは分けありて裏にこを使ふ分限者(ぶげんじゃ) 居る ※分限・金持ち

犯人は分限者(ぶげんじゃ) なれば警察はこやつに与し我(わ) を脅すがね

我ほどの引つ越し貧乏なかるらむか行きかく行き世に住み難し

わが住まひ常に共同住宅ゆる隣室ありそこにしうから来(く)

女らは霊視女（め）なればいづこへ転居すとも我が場所を知れり

眠るとは幽体離脱にてそろそれ見ゆるとて霊視女（め）興がりて…

宮内卿の「麻の狭衣」ならなくにかたぶくまでの月を見る夜々

かうしも長くえ寝ざりければ身はやつれ死の門に立たされしか

思ひ出ず九年（ここのとせ）前の辰の年寅年われは搏ち負かされたり

寅も寅五黄（ごう）の寅が搏ち負けてガンとなりしは五黄（ごう）は業たりな

九時間の大手術終え生還す入院ともにただ切なりき

あな辛きこの輩かな！死にかけて戻るもまだ居りぬ、平気面（づら）して

悪（わる）霊視ストーリーカーわざのみならず盗作もすなり我が小説を

ネット誌に深夜掲載すれば即読まるるが不思議なり、さては…

チンピラを使ふがすなはち本星（ほんぼし）でそやつは不動産業界の顔

本星は金・コネクション自在にて又借り又貸しさすも儘なり

転居先店子は誰も貧しかり又貸し請はるれば即応ずかくてわれ二十年（ふたとせ）弱を経にければこの

災禍もはや堪へ難かり

ストーリーカーそもその分けは戯けなり、こやつ、俺の顔を立てろとぞ

二十年（ふたとせ）のストーリーカーわざなにゆゑか猫が鼠を…格差のすさびぞ！

つまらぬ！これが人生か一生か！一葉お力、我にて
違はず

七十年（ななとせ）を斯うしも経ればよろづごとこ
ころごころなるが身に沁みて

コロナ来てやうやう見ゆる上姿（かみすがた）すべ
ては五輪民は放り置け

知るや歌姫。パトリシア・プディボンをおペレッタの
意気そを貫くと云ふ

QアノンNW Oロックフェラーにロスチャイルド陰
謀説うべと

うべなりな陰謀説の起こるのも9・11の真実（ま
こと）知らるれば

気を付けて赤頭巾ちゃん夜も更けた：帰途のOL狼
の街行く

見渡せば弥生のサクラ目覚ましくあといくたびを思

はぬでもなし

いかならむマック難民香港の無情のコロナ寝場所奪
ひしが

※和歌より写真で、24時間営業のマック内で寝る香
港の難民たち、就中老婆の姿を紹介します。難民でい
っぱいの写真もあったが印象的なこちらを引いた。



※この老婆さんは結局マック内で亡くなったそうです。
写真サイトにそう書いてありました。この方のみなら

ず24h営業のマック内は老若男女の香港難民（＝格差難民）たちでいっぱいです。それなのにコロナ自粛が彼らを直撃しました。南国とは云え真冬の時期だった。寝場所を失った彼らはどうなったでしょうか？さらに、このマック難民は香港のみならず世界に知らされ難いが中国本土でも見受けられるとか。こちらは仕事にあぶれた若者たちで溢れているそうです。さて、この世界中で進展する一方の格差：いったいどうなることでしょうか？

緑陰の綾なす模様地に揺れて貧老人生モザイク写す

※これは現地詠で場所は地下鉄西早稲田駅近くの都立戸山公園でした。但しこの写真は全く違います。同公園でベンチに腰掛けた時このようなモザイク模様の樹影が足元に広がっていた、それを示す為に引いたもの。この写真では幼児がそれに見入っていますが実際には老人だった：つまり私ですね。同地には仕事の面接に行ったのです。70面をこいて。むろん、不採用でした。



【和歌集蛇足】

前の写真説明文で「むろん、不採用：」と至って事もなげに書きましたが実際にはかなり痛かったのです、不採用が。秦野から新宿まで高い交通費をかけて面接に行った分けは条件が「寮付き」だったからです。仕事は駅周辺の放置自転車の撤去で区のお役人と2人で回るのだとか。入寮出来れば表題の四人（よったり）

ストーリーカードもから離れられる。1回目の面接では即採用的な感じだったので目一杯期待して後日の電話連絡を待っていた、然るに……。そのストーリーカードもがいつものようにタレ込んだか、あるいは前の会社に電話確認して私がストーリーカードヤクザに追われている身であり、雇っても遅刻等で仕事が続かないと知ったのでしよう。電話連絡ではけんもほろろになっていた。もうこの年ながら数え切れない程の面接を受けているのでこれがいづのことだったか（笑い）：確か2年前あたりだったと思います。面接後に憩うた公園で見た印象的なモザイク模様の影、70になっても迷走せざるを得ない、私の惨めな人生模様を見るようでした。

さて冒頭の、”またとない” 歌題の理由です。それは格差とその発生理由、並びにその進捗模様：となりましようか。裕福な人たちにとつてはこんな私や格差難民などいい慰み者でしょうが、問題はその数の増加と慰まれ度、蔑まれ度が進んだということです（最早いじめ！）。そしてあと一つ、その発生理由が抑々人間存在の本義に背いているからです。人とは他のものに、他者の為に働き存在するものと見ます。第一働くという、勤労の意味を突き詰めて行けばこの利他に行き着くのだそうです。それなのに私や難民らを蔑み、

自らの慰みの対象にするとは：およそ世界があらぬ方向へと向かっているのだと思います。ならばこれへのNOを提示することほど”またとない”理由に、切事にはなりませんまいか。まして私などは自らの不甲斐無さゆえの零落とは云えず、18年間に及ぶワルドもの苛みがあつてのことです。にも拘らず我ら零落者には十把一絡げで世間による「プータ！」の大合唱です。

私などの例を引かずとも格差難民が発生するのは理由があつてのことです。我国で云えば長期に及ぶデフレ施策と対米追従&上納施策があり、企業・株主らストックインカム族を優遇するばかりで、一般勤労者らを不安定な非正規雇用に貶めた儘だからです（これも企業・株主らの利益にストレートなる）。グローバル経済のさらに進んだ米国などではもつとシビアな理由があつて格差難民が増加中と見ます（ひたすらホームレス増加中！不動産業が悪さしている。因みに私へのストーリーカードもの親玉も不動産業）。これら格差進展の基にあるものは、前記の利他という人間の本懐を失ったことと、利他どころか他者とは比較対象、差別すべきものとして見さえすることです。俗に云う、他者と差がつくほど安心し増長する風潮に堕している。欲望に際限がないのと同様にこの格差指向にも恐らく際

限はないでしょう（これは換言すれば私の拙著「渋谷少女A・イントロダクション」内の魔王アスラーへの道です）。これへの反発と抗議の意味を込めてこの「落選和歌集」を綴り始めたのですが、如何せん書いてる内に『こんな歌題の歌集など相手にもされまい』と諦めて、応募すらもせず、早々と「落選和歌集」と銘打ってこちらに掲載させて頂いた次第です（笑い）。最後に一首、写楽呆介名でツイッターに掲載した和歌を一首置いて仕舞いとします。どこでも不人気な私の割にはアクセス数が多かった。左にURL張つときますね。「他者を求める和歌」です。

<https://twitter.com/i6U3xYDHFkPR8Bz/status/1408502774489182209?s=20>

汝（な）はいづこロンビー又よ出でよかし月下に
さまよふ悲しきピエロ



PS…うーん、やんぬるかな。ここで終る筈だったのに、読み返してみたら冒頭歌の「塞翁が馬」へのレクチャーが、肝心のものがゴッソリ抜けてました。トホホ。ご迷惑でしょうがもう二、三言…。

なぜ私が塞翁が馬かと云うと、単なる詭弁、もしくは屁理屈をこねると思われましようが、そう設定しなければ余りにも堪らないからです、この私の悲惨な状況が。貧乏くじを引いたような人生が。いまは7月12日の正午近くで週始めの月曜なのにも拘らず、真下の部屋始め階段の部屋々々からは「プータ！」だの「ま

だ居るよ」「まだ生きてるよ」だのと、屑どもの戯言が朝から聞こえてくる。要は誰も働いていないのです。その本来働き盛りたる四十半ばの「ガキ」（こんなの皆ガキです、大人とは云えない）なのにも拘らず。朝から晩まで（更にその翌朝まで、要するに一日中）私への睡眠妨害始め罵りなどの嫌がらせに徹している。そしてこいつらストーカーどもの生活を悪金持ちたる親玉が保障しちやつてる分けです。超長期18年間に渡つて。こいつらは皆又借り店子どもで正式な住人ではない。その事実を管理人には何度も、オーナーたる不動産会社には電話と文書で2回通報したが一切取り合わない。なぜか。共犯だからです…。

こんな状況の私がいったいどれほど悲惨になると思いますか？身心ともに殆ど生きられませんか。歌集内で「これが人生か、これが一生か！」と絶句した次第ですが、しかし、いや、だからこそ私はこれを塞翁が馬とするしかないのです。この悲惨さと不合理が私ほど身に染みてる者がいないのなら、私はこれを自分の作品内で訴え続けたい。もしこれが社会に受け入れられるなら私の塞翁が馬は成就しますが、そうでなければ塞翁の「さ」の字にもなりません（失笑）。

かの著名な中国の女流作家である蕭紅がその作品

「生死場」で描いたことを私も描きたい。さらにその奥を極めたい。塞翁が馬を疾走させなければならぬ所以です…。



【Dorota Kudryba さんの作品。この野性味あふれる馬を我が塞翁が馬としたい】